

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市小松島児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 25,185人(前年度比 98.4%) 令和5年度 25,587人 令和4年度 26,380人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 54,763千円(53,169千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、保護者会をはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
「チームde子育て」「利用者の立場に立って考える」を目標に、保護者、学校、地域の皆さんと共に子ども支援、子育て支援に取り組んできました。 【児童健全育成】 児童館まつりは、定員をなくし自由参加の形式を取りました。児童クラブだけでなく、自由来館、中学生スタッフの協力もあり、スタッフを含めると200人以上の参加がありました。感謝祭ではお茶のお振舞いなど、子どもたちが力を大いに発揮し、その姿を見ようと保護者の方もご来館されました。子どもたちの自信にも繋がったと思います。 児童クラブを卒業した中学生が、夕方の中高校生タイムを利用するとともに、自らボランティアとして活動する様子もありました。 【子育て家庭支援】 幼児クラブの曜日を変更して、より参加がしやすいようにしたり、図書の貸出期間を2週間に延長したりと、利用者に合わせた対応を取ってきました。親子が楽しめる行事の他、相談事業も継続して行いました。話をすることでホッとして帰られる保護者の方もいらっしゃいました。土曜日の来館もあり、小学生と乳幼児が触れ合う姿も見られました。 【地域交流推進】 民児協、子育て支援クラブ、市民センター、保健福祉センター等と連携して事業を行ってきました。ウクレレコンサート、親子ピクス、館外での活動等、児童館だけではできない行事もあり、それらの活動を通して様々な年代の交流がありました。行事がなくても気軽に立ち寄ってくださる地域の方もいらっしゃいます。 【放課後児童健全育成】 3か所での運営をしていますが、すべての児童が外遊びができるように引率を行う等、なるべく偏りがないようできる限りの取り組みをしています。紙トンボ作りなど児童の意見に耳を傾け、一緒に考え実施しました。それらによって異学年の交流にもなりました。 保護者懇談会時に児童の作品を展示するなど、間接的にでも親子がお互いを感じられる工夫をしました。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、中高校生専用時間帯を設け、スポーツグッズを整える等して利用促進に努めており、利用者が増加した。職員とおしゃべりに来館する生徒もあり、放課後の居場所の一つとなっている。高学年を対象とした「ピッキーズB」では一緒に企画会議を行い、こどもの意見を反映しながら年間計画を立てて実施した。児童館まつりでは一つのブースの企画運営を担当するなど、様々な取り組みを通して、自主性や社会性を育んでいる。 子育て家庭支援事業においては、保護者の希望を受けて図書の貸し出し期間を2週間に変更した。「ホッとひとときママのティータイム」では前年度のアンケートを反映した内容を企画し、民生委員児童委員の協力を得ながら活動の後には保護者同士が交流できるような環境を整えている。「土曜日乳幼児広場」では、親子で手作りおもちゃで遊び、そのおもちゃをプレゼントして家庭での遊びにも展開させていくなど、利用者のニーズに合った多彩なプログラムを提供しながら地域の子育て家庭を支援している。 地域交流推進事業においては、市民センターまつりで児童館紹介パネルの設置をしたり、コミセンまつりでは職員と児童クラブ保護者会の世話役の方が遊びのブースを担当しながら、児童館の事業や子ども達の活動を紹介するなど、保護者と協働しながら地域に向けた児童館事業の認知向上に努めている。 放課後児童健全育成事業においては、児童発案企画として野球やバレーボール、工作等を「ミニイベント」として開催している。各イベントの広報も児童が担う等、主体的に運営に関わる機会を提供し、自主性を育みながら活動を通して異年齢交流も図られている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課